

【Problem List】

#1 発熱

39°C 近くまでの発熱が、毎日続く時期がある。悪寒・疲労感も(+)だった。咳・喀痰は(-)だった。イブプロフェンを投与すると一時的に熱は下がった。下痢、鮮血便を後にみた。

各種感染症検査はいずれも陰性。

#1-1 食欲低下、体重減少

#2 肺異常陰影

#2-1 胸水、呼吸困難、すりガラス状陰影、Crackle 聴取

消長を繰り返し、CT 上、肺尖部の葉間隔壁肥厚(肺浮腫に矛盾しない)や気管支周囲の間質肥厚もみられた。

#2-2 縦隔リンパ節の軽度腫脹 FDG-PET では取り込み(-)。

#2-3 両下肢の軽度 Pitting Edema 下肢ドップラーエコーで DVT(-)。

#2-4 FDG-PET:両肺でびまん性の uptake あり。

#3 2型糖尿病 診断がついたことのみ記載されている。(血糖値、HbA1c 等の記載なし。)

#4 赤沈高度亢進

入院中、94~115mm/hr で推移した。(成人男性の基準値:2~10mm/hr。25 歳を過ぎると年齢とともに増加する。25~50 で中等度亢進、50 以上で高度亢進と評価される。)

#5 正球性貧血

#5-1 骨髓検査・フローサイトメトリーで異常所見(-)。

#6 血液検査値異常(低 Na 血症、高 K 血症、BUN 上昇、血清 Cre 上昇、間接 Bil 軽度上昇、Alb 低値、グロブリン上昇、AST・ALT 軽度上昇、ALP 上昇)

⇒Fig.参照してください。

#7 抗核抗体-強陽性(1:1280)、抗平滑筋抗体陽性-境界域(1:40)

他の自己抗体は、RF、p-ANCA、c-ANCA も含め陰性である。(これ以上の詳細は記されていない。)

参考:抗核抗体(ANA: anti-nuclear antibody)は、640 倍以上で「強陽性」と評価される。

ANA(+)は、SLE の 95~99%、MCTD の 100%、SSc の 95%、シェーグレン症候群の 75~90%、PM/DM の 80%、自己免疫性肝疾患の 60~90%でみられる。

また、健常者で(+)となる率は 3~5%、70 歳以上の高齢者では健常者の 20~40%にみられるとされている。そのため、ANA(+)だけで膠原病の診断は下せない。疾患特異的抗体の精査が必要となる。(出典:『臨床検査データブック 2007-2008』)

#8 海外渡航歴 バングラデシュで生まれ育ち、4年前にアメリカ移住。最近も入院9ヶ月前からの4ヶ月間、バングラデシュに滞在していた。